

免疫装置更新により採血から 30 分報告実現

「Accraseed 導入したことにより診療の TAT 改善へ」

◎松原 貴志¹⁾

地方独立行政法人 長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター 臨床検査部¹⁾

検体検査において、臨床検査技師が迅速に検査を実施して結果を報告することは、患者の待ち時間短縮に繋がるだけでなく、病院全体の診療効率向上にも寄与するため、効率的な検査体制の構築が重要である。

当院は 415 床を有し、高度・急性期医療、救命救急医療を掲げており臨床検査部においても専門性の追求と同時に 24 時間緊急検査に取り組んでいる。検体検査部門には全 31 名の臨床検査技師のうち 8 名が所属し、生化学・免疫/血液/一般および外部委託検査管理業務を担当している。夜勤や振替休日などを考慮し、ルーチン業務は 3 部署に各 2 名、計 6 名で運営しており、共通業務の設定や日替わりローテーション体制を行っている。しかし、分析装置のメンテナンスを時間外に施行せざるを得ないなどから、時間外労働の増加が課題となっていた。2024 年 12 月に自動化学発光酵素免疫分析装置 Accraseed（富士フイルム和光純薬株式会社）4 台を導入し、併せて業務フローを見直したことによる業務効率化および業務改善に及ぼした影響について検討した。

免疫装置更新前の平均 TAT が約 35～45 分であったが、Accraseed 導入後は約 24 分に短縮し、生化学検査（約 23 分）とほぼ同時に結果報告が可能となった。また、メンテナンス作業が簡便なため装置台数を増やしてもメンテナンスを業務時間内に実施できるようになったことで、時間外労働の大幅な削減につながった。加えて操作性が簡素化されており、職歴の浅い技師や機器の使用経験が少ない技師でも安定した結果報告が可能となり、少人数体制においても日替わりローテーションなど柔軟な人員配置を実現できた。さらに、装置の複数台運用によりトラブル発生時にも検査を継続できるバックアップ体制を構築できた。加えて、モノテストタイプの試薬により試薬ロスが少ないことから、検査件数の少ない検査項目の院内化も可能となり、臨床への迅速な結果報告を通じて検査から治療開始までの時間短縮にも寄与した。

Accraseed 導入により、TAT およびメンテナンス時間が大幅に短縮され、業務改善および業務効率化に有用であった。また、バックアップ体制の構築や一部検査の院内化により臨床への貢献が可能となった。今後は、装置導入によって創出された時間を活用し、スタ

ッフ教育や技術取得をさらに推進していく予定である。